



## 平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年1月30日

上場会社名 株式会社 LTTバイオファーマ  
 コード番号 4566 URL <http://www.ltt.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 鈴木 巖  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役研究開発本部長 (氏名) 新居 泰  
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月3日

上場取引所 東

TEL 03-5733-7391

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	940	—	△536	—	△315	—	△111	—
20年3月期第3四半期	4,183	346.8	50	—	569	—	△148	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	△844.74	—
20年3月期第3四半期	△1,580.53	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
21年3月期第3四半期	1,767	—	1,165	—	65.9	8,838.96	—	
20年3月期	2,785	—	1,900	—	68.2	14,408.98	—	

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 1,165百万円 20年3月期 1,900百万円

### 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
21年3月期	—	0.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

### 3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	942	76.3	△665	—	△460	—	23	—	174.41

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

現時点においては通期連結業績予想を変更していませんが、現在当社が2009年3月末までを目処として交渉を進めております子会社株式の譲渡等によって、今後通期の連結業績予想が修正となる可能性があります。連結業績予想の修正につきましては交渉等の事実が確定次第速やかに開示いたします。

### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

新規 — 社(社名) 除外 — 社(社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注) 詳細は、3ページ「定性的情報・財務諸表等 4. その他」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第3四半期 131,868株 20年3月期 131,869株

② 期末自己株式数 21年3月期第3四半期 1株 20年3月期 1株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第3四半期 131,868株 20年3月期第3四半期 93,900株

### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記記載のものと異なる場合があります。

業績予想の前提となる仮定については、2ページ「3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

2. 当連結会計年度より「四半期連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しています。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しています。

## 定性的情報・財務諸表等

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当社の当第3四半期連結累計期間における活動は以下のとおりであります。

## (1) 当第3四半期連結会計期間における主な動き

## ① ライセンス活動

前第2四半期連結会計期間までの研究開発活動を踏まえ、当第3四半期連結会計期間においてはライセンス活動を積極的に行い、交渉先毎に随時秘密保持契約等を締結し、ライセンス化に向けた協議を進めております。それらの実績といたしましては、以下のとおりであります。

## PC-SOD

国内および海外における交渉先 7社

## AS-013

国内および海外における交渉先 3社

## ② 子会社設立

EIP事業の拡大に向け、平成20年10月1日に当社100%出資子会社（株式会社マシンパーツ販売）を設立いたしました。

## (2) 研究開発活動について

当第3四半期連結会計期間におけるライセンス活動以外での研究開発では、既に中国にライセンスアウトしたPC-SODの治験用製剤の製造において予定通りの進捗が見られたほか、SRG（Zn-G-CSFより名称変更）では、今後ヒトでの臨床試験に供する製剤の基本プロセスを確立いたしました。また、基礎研究についても引き続き熊本大学薬学部附属創薬研究センターならびに聖マリアンナ大学難病治療研究センター等との共同研究・開発を進めております。

## (3) 調剤薬局事業について

100%子会社である株式会社ソーレの調剤薬局事業は堅調に推移いたしました。当第3四半期連結累計期間における調剤薬局事業の売上高は920,520千円（前年同四半期比4.1%増）となりました。

## (4) その他

上場維持は当社グループとしての最重要課題と認識しており、継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況に関する注記の解除に向けて安定的なキャッシュ・フローならびに収益体質の改善を目指し、経常経費の節減ならびに創薬事業およびEIP事業での事業収益獲得に取組んでおります。

また、経営資源を創薬事業ならびにEIP事業へ集中させるため、当社の100%子会社である株式会社ソーレの株式譲渡を決定した件については、譲渡候補先企業との間で最終的な条件等を詰める段階となっております。

一方、当社が被告となっている訴訟に関する対応につきましては、いずれも当社が損害賠償金を支払う義務は全くないと考えており、現在法廷の場で適切に対応しております。

こうした活動の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は940,906千円（前年同四半期比77.5%減）、営業損失は536,229千円、経常損失は315,619千円、四半期純損失111,394千円（前年同四半期比37,018千円減）となりました。

（注）前年同四半期との増減額および増減率は参考値で以降も同様です。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

## (1) 資産および純資産の概況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、第2四半期連結会計期間末到北京泰徳製薬有限公司を持分法適用関連会社より除外したことが主な要因となり、前期末比10億17百万円減の17億67百万円となりました。純資産につきましても上述の理由により、前期末比7億34百万円減の11億65百万円となり、自己資本比率は65.9%となりました。

## (2) キャッシュフローの概況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は237,032千円となりました。当第3四半期連結会計期間のキャッシュ・フローの概況は以下のとおりであります。

## （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、77,158千円のマイナスとなりました。これは主に税金等調整前四半期純損失△92,848千円、減価償却費3,399千円、のれん償却額7,857千円などによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出により、47,250千円のマイナスとなりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローはありません。

### 3. 連結業績予想に関する定性的情報

現時点においては通期連結業績予想を変更しておりませんが、現在当社が2009年3月末までを目処として交渉を進めております子会社株式の譲渡等によって、今後通期の連結業績予想が修正となる可能性があります。連結業績予想の修正につきましては交渉等の事実が確定次第速やかに開示いたします。

### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(たな卸資産の評価方法)

当第3四半期連結会計期間末のたな卸高の算出に関しては、実地たな卸を省略し、第2四半期連結会計期間末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、たな卸資産の簿価切り下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積もり、簿価切り下げを行う方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

②「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成18年7月5日 企業会計基準第9号）を第1四半期連結会計期間から適用し、評価基準については、原価法から原価法（収益性の低下による簿価切り下げの方法）に変更しております。

なお、この変更による営業損失、経常損失および税金等調整前四半期純損失に与える影響はありません。

## 5. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	342,032	516,360
売掛金	194,461	179,828
たな卸資産	335,783	74,459
商品	63,478	20,247
貯蔵品	272,304	54,211
前渡金	—	300,130
その他	96,642	177,632
貸倒引当金	—	△106,589
流動資産合計	968,919	1,141,821
固定資産		
有形固定資産		
建物	34,598	34,598
減価償却累計額	△6,935	△6,596
減損損失累計額	△23,170	△23,170
建物(純額)	4,493	4,832
機械及び装置	29,841	—
減価償却累計額	△7,259	—
機械及び装置(純額)	22,582	—
工具、器具及び備品	23,427	23,532
減価償却累計額	△8,218	△8,352
減損損失累計額	△14,685	△14,685
工具、器具及び備品(純額)	523	494
建設仮勘定	47,250	—
有形固定資産合計	74,849	5,326
無形固定資産		
のれん	39,285	62,857
特許権	225,000	253,125
その他	1,175	1,527
無形固定資産合計	265,461	317,509
投資その他の資産		
投資有価証券	13,580	13,580
出資金	41,869	—
関係会社出資金	—	816,710
長期預金	300,000	405,000
破産更生債権等	356,589	250,000
その他	103,064	85,194
貸倒引当金	△356,589	△250,000
投資その他の資産合計	458,513	1,320,484
固定資産合計	798,823	1,643,320
資産合計	1,767,743	2,785,142

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	318,483	153,308
未払金	211,896	197,193
未払法人税等	19,400	37,258
繰延税金負債	—	117,612
賞与引当金	549	2,841
債務保証損失引当金	30,000	30,000
その他	5,901	194,795
流動負債合計	586,231	733,010
固定負債		
長期未払金	—	105,000
退職給付引当金	8,781	12,470
役員退職慰労引当金	1,400	23,282
その他	5,753	11,295
固定負債合計	15,934	152,047
負債合計	602,166	885,058
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,852,558	1,852,558
資本剰余金	7,784,433	7,784,433
利益剰余金	△8,471,415	△7,846,789
自己株式	—	△151
株主資本合計	1,165,576	1,790,050
評価・換算差額等		
為替換算調整勘定	—	110,033
評価・換算差額等合計	—	110,033
純資産合計	1,165,576	1,900,083
負債純資産合計	1,767,743	2,785,142

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
売上高	940,906
売上原価	695,082
売上総利益	245,824
販売費及び一般管理費	
研究開発費	217,800
その他の販売費及び一般管理費	564,253
販売費及び一般管理費合計	782,054
営業損失 (△)	△536,229
営業外収益	
受取利息	810
持分法による投資利益	215,499
その他	5,065
営業外収益合計	221,376
営業外費用	
その他	766
営業外費用合計	766
経常損失 (△)	△315,619
特別利益	
受取保険金	100,000
その他	3,688
特別利益合計	103,688
税金等調整前四半期純損失 (△)	△211,931
法人税、住民税及び事業税	17,020
法人税等調整額	△117,556
四半期純損失 (△)	△111,394

(第3四半期連結会計期間)

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間  
 (自 平成20年10月1日  
 至 平成20年12月31日)

売上高	318,975
売上原価	241,376
売上総利益	77,598
販売費及び一般管理費	
研究開発費	55,183
その他の販売費及び一般管理費	114,869
販売費及び一般管理費合計	170,052
営業損失(△)	△92,453
営業外収益	
受取利息	100
その他	270
営業外収益合計	371
営業外費用	
その他	766
営業外費用合計	766
経常損失(△)	△92,848
税金等調整前四半期純損失(△)	△92,848
法人税、住民税及び事業税	4,510
法人税等調整額	304
四半期純損失(△)	△97,663

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間  
 (自 平成20年4月1日  
 至 平成20年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△211,931
減価償却費	8,110
のれん償却額	23,571
無形固定資産償却費	28,125
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△21,882
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△3,688
賞与引当金の増減額(△は減少)	△2,292
受取利息及び受取配当金	△810
受取保険金	△100,000
持分法による投資損益(△は益)	△215,499
売上債権の増減額(△は増加)	△14,632
たな卸資産の増減額(△は増加)	△41,414
前渡金の増減額(△は増加)	35,119
仕入債務の増減額(△は減少)	117,474
未払金の増減額(△は減少)	△90,296
預り金の増減額(△は減少)	△190,247
その他	11,925
小計	△668,370
利息及び配当金の受取額	370,197
保険金の受取額	100,000
法人税等の支払額	△33,905
営業活動によるキャッシュ・フロー	△232,078
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の払戻による収入	105,000
有形固定資産の取得による支出	△47,250
投資活動によるキャッシュ・フロー	57,750
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△174,328
現金及び現金同等物の期首残高	411,360
現金及び現金同等物の四半期末残高	237,032

## (4) 継続企業の前提に関する注記

前連結会計年度において、投資有価証券評価損ならびにデューデリジェンス費用等の一時的な費用ならびに第Ⅱ相臨床試験の実施に伴う研究開発費の増加などにより大幅な損失を計上し、営業キャッシュ・フローも連続してマイナスであったことから、当第3四半期連結会計期間においても継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

そうした状況を真摯に受け止め、より安定した経営基盤の確立に向けて財務体質を強化し、経営効率を高めるべく様々な課題に取り組みました。具体的には役員報酬の減額をはじめ徹底的な事業費用の節減を実施するとともに、限られた経営資源を無駄なく効率的に活用するため、継続的に各研究開発プロジェクトの採算性・成長性・必要性を厳しく精査いたしました。結果として、前年同四半期と比較して営業キャッシュ・フローは100,791千円改善しておりますが、当第3四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは232,078千円のマイナスとなっております。

また研究開発プロジェクトの成果として、特発性間質性肺炎を適応症としたPC-SODの第Ⅱ相臨床試験終了に伴い、PC-SODのライセンス供与に向けた活動が始まっており、EIP技術を中心とした表面改質化技術につきましても平成20年10月1日に当社100%出資子会社(株式会社マシンパーツ販売)を設立するなど、事業化が進展しております。

さらに提出日現在では交渉継続中となっておりますが、経営資源の集中の一環として当社の100%子会社である株式会社ソーレ株式を売却予定であります。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような重要な疑義の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

## (5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

当第3四半期連結会計期間(自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)

	創薬事業 (千円)	調剤薬局事業 (千円)	計(千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	2,328	316,647	318,975	—	318,975
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,328	316,647	318,975	—	318,975
営業利益(△損失)	△105,998	13,544	△92,453	—	△92,453

当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)

	創薬事業 (千円)	調剤薬局事業 (千円)	計(千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	20,385	920,520	940,906	—	940,906
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	20,385	920,520	940,906	—	940,906
営業利益(△損失)	△582,052	45,822	△536,229	—	△536,229

1. 事業内容及び商品、用途、販売方法等を考慮して事業区分を行っています。

2. 各事業の主な商品、事業内容

- (1) 創薬事業 DDS技術を利用した医薬品、ならびに化粧品に対するロイヤリティ収入等  
 (2) 調剤薬局事業 医療用医薬品、一般薬の販売

〔所在地別セグメント情報〕

当第3四半期連結会計期間（自平成20年10月1日 至平成20年12月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が100%であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

当第3四半期連結会計期間（自平成20年10月1日 至平成20年12月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）

海外売上高がないため該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## 「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表

## (1) 第3四半期連結損益計算書

区分	前第3四半期連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)		百分比 (%)
	金額 (千円)		
I 売上高		4,183,517	100.0
II 売上原価		1,566,570	37.4
売上総利益		2,616,947	62.6
III 販売費及び一般管理費			
1. 研究開発費	782,220		
2. その他の販売費 及び一般管理費	1,784,657	2,566,877	61.4
3. 営業利益		50,069	1.2
IV 営業外収益			
1. 受取利息	30,154		
2. 受取配当金	73		
3. 持分法による投資利益	453,675		
4. 特許権実施許諾料	30,000		
5. その他	19,255	533,159	12.7
V 営業外費用			
1. 支払利息	4,236		
2. 株式交付費	1,291		
3. その他	7,927	13,456	0.3
経常利益		569,771	13.6
VI 特別利益			
1. 貸倒引当金戻入益	85,685	85,685	2.0
VII 特別損失			
1. 減損損失	9,243		
2. 投資有価証券評価損	12,420		
3. 固定資産除却損	590		
4. その他	1,730	23,984	0.6
税金等調整前第3四半期純利益		631,472	15.1
法人税、住民税及び事業税	910,819		
法人税等調整額	△116,358	794,461	19.0
少数株主損失		14,576	0.3
第3四半期純損失		148,412	△3.5

## (2) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前第3四半期連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)
区分	金額 (千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前中間純利益	631,472
減価償却費	69,131
減損損失	9,243
のれん償却費	266,644
役員退職慰労引当金の増減額	△3,587
退職給付引当金の増減額	△4,775
賞与引当金の増減額	△3,282
受取利息及び配当金	△30,228
支払利息	4,236
投資有価証券評価損	12,420
持分法による投資利益	△453,675
売上債権の増減額	△8,107
たな卸資産の増減額	5,798
前渡金の増減額	△833,369
仕入債務の増減額	157,259
未払金の増減額	△72,372
その他	△339,643
小計	△592,835
利息及び配当金の受取額	273,470
利息の支払額	△2,986
法人税等の支払額	△10,518
営業活動によるキャッシュ・フロー	△332,869

	前第3四半期連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)
区分	金額 (千円)
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△517,239
定期預金の払戻による収入	195,365
有価証券の取得による支出	△1,000,000
有価証券の売却による収入	1,000,000
有形固定資産の取得による支出	△109,949
有形固定資産の取得による収入	3,325
無形固定資産の取得による支出	△10,613
貸付による支出	△405,900
貸付金回収による収入	411,818
投資活動によるキャッシュ・フロー	△433,193
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金による収入	1,843,589
短期借入金の返済による支出	△2,206,295
長期借入金による収入	11,632
長期借入金の返済による支出	△23,876
財務活動によるキャッシュ・フロー	△374,949
IV 現金及び現金同等物の増加額	△1,141,012
V 現金及び現金同等物の期首残高	2,022,641
VI 新連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	139,459
VII 連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△16,068
VIII 現金及び現金同等物の中間期末残高	1,005,020

## (3) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第3四半期連結会計期間(自平成19年4月1日至平成19年12月31日)

	創薬事業 (千円)	調剤薬局事業 (千円)	医療再生事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	44,161	883,519	3,255,836	4,183,517	—	4,183,517
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	44,161	883,519	3,255,836	4,183,517	—	4,183,517
営業費用	1,314,901	860,757	1,691,143	3,866,803	266,644	4,133,447
営業利益	△1,270,739	22,761	1,564,692	316,714	△266,644	50,069

1. 事業内容及び商品、用途、販売方法等を考慮して事業区分を行っています。

2. 各事業の主な商品、事業内容

- (1) 創薬事業           DDS技術を利用した医薬品ならびに化粧品に対するロイヤリティ収入等
- (2) 調剤薬局事業    医療用医薬品、一般薬の販売
- (3) 医療再生事業    医療再生に対する業務報酬等

〔所在地別セグメント情報〕

前第3四半期連結会計期間(自平成19年4月1日至平成19年12月31日)

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

前第3四半期連結会計期間(自平成19年4月30日至平成19年12月31日)

海外売上高がないため該当事項はありません。